

【授業実践の振り返り】

国語（光村）6年 「海の命」

時限	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子ども達の反応
0	家庭学習課題	第1時限に全体の概要をつかむために、あらかじめ意味が分かりにくいと思われる言葉を調べてくる。	・副教材のドリルにある言葉調べだけでは不十分なので、この宿題ワークシートがあることで、子ども達がより多くの言葉を調べるきっかけとなり良かった。		・初めての本文通読後でも、ほとんどの言葉の意味が分かっており、大意を素早くつかむために役立っていた。
1	学習課題をつかむ	めあて <u>物語の全体をつかもう</u> <ul style="list-style-type: none"> 教科書は開かずに教師の範読を聞く。 途中で「次はどうなる？」クイズに答えながら、聞き進める。 音読練習をする。（追い読み、交代読み、相づち読みなど） 物語文の読みの観点を確認する（ワークシート②）。 クイズ「その言葉、誰のもの？」 	<ul style="list-style-type: none"> 範読中に3か所で行った「次はどうなるクイズ？」は、子ども達に小休止を与える意味で効果的であった。一瞬止まって考えることで、次に範読が再開した時に、また集中できていた。初めから終わりまでいっきに範読をするよりも、子ども達には聞きやすかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の読みの観点を確認するワークシート②では、この物語においては「対役」が「父」、「与吉じいさ」、「クエ」と意見が割れたので、そこは突き詰めずに「解釈によっては、どの登場人物が対役かが変わってくることもあり得る」ということで終えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 範読の時に、教科書でなく絵本「海の命」を使用した。すべてのページにカラーの絵があるため、それを見せながら読み聞かせをしたところ、「次はどうなるのかな？」と興味関心を持ちながら聞いていた。
2		<ul style="list-style-type: none"> クイズ「その言葉、誰のもの？」 太一、おとう、与吉じいさの言葉を短冊にしておき、誰の言葉をかを当てる。 意見交流「誰の言葉が一番心に残る？」 自分の名前マグネットを該当の短冊わきに貼り、どうしてそう感じたのかを交流する。 次時の予告と宿題の説明。 	<ul style="list-style-type: none"> クイズ「その言葉は、誰のもの？」をしたことで、それぞれの登場人物が発した言葉（先々の課題のためにも、ぜひここで注目をさせたかった）に、かなり意識が向くようになった。その後に行った「誰の言葉が一番心に残る？」交流では、子ども達が「なぜ好きなのか？」の根拠を発表し合うことで、既に登場人物の人物像の解釈が自然と始まっていた。（子ども達にとっては無意識に行われていた） 	<ul style="list-style-type: none"> 同じくワークシート②で「誰の視点で書かれているか？」を考えることが難しかったようだ。時間に余裕があれば、「視点」とは何か？の説明をもっと丁寧にできると良いと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの子ども達がこの物語を知らなかったため、教科書の単元というよりは、普通に読み聞かせをして貰っている感覚で、物語の流れに引き込まれていったように見えた。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 全文の音読。（ワークシート①の言葉を確認しながら読む） ワークシート③発問 A~D について、本文を読み深める前の自分の考え（1-A~1-D のみ）書いてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート③発問 A~D に答えるためには、全文をしっかりと読まないといけなかった。ワークシートを作成した一つの狙いでもある「自宅で音読課題にしっかりと取り組む」が達成された。 	<ul style="list-style-type: none"> 1~2 時間目を欠席していた子どもにとっては、難しい課題であったかもしれない。授業に出席をして、物語の概要を理解した上で取り組めると、自分なりの考えが持ちやすいと思われる。 	

時限	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
3	登場人物の関係をとらえる。	<p>めあて <u>太一を取り巻く人たちの関わりを関係図に表そう</u></p> <p>・「指さしゲーム」で音読宿題の成果を確認する。 (教科書本文を見ながら、指定された言葉や表現を探して、パ ツと指さす。先生⇄児童でやり方を教えた後に、ペアワーク)</p> <p>・宿題だったワークシート③発問 A~D について交流し、自分とは違う考え方があることに気づき、自分の考えを広げる。</p> <p>・太一と太一の生き方に影響を与えた登場人物との関わりを、ワークシート④人物関係図にまとめる。</p> <p>* 父から学び取ったこと=父の影響 * 与吉いさから学び取ったこと=与吉いさの影響 * 個々の考えを全体化、共有化する。</p>	<p>・「人物関係図」を作り上げていく際に、まずは「自分で」できるだけ記入した後に、「グループ内で」それぞれの考えを交流した。そして最後には、クラス全体で意見を出し合い、みんなでクラスとしての「人物関係図」を完成することができた。</p> <p>・この時点で、既にかなり深い読みに到達している子ども達があり、その子どもたちの考えを聞くことで、知らず知らずのうちにクラス全体が物語の主題に迫っていくことができた。自分とは異なる考えを聞き、「なるほど、そういう考え方もあるんだ。そういう風に考えを広めていくんだ。」と、感心している子ども達があり、教師の指導が入らなくても、子ども達同士で読みを深めていくことができた。</p>	<p>・「海の命」の登場人物について「人物関係図」を記入していく前に、まずは子ども達が知っている物語（昔話やマンガなど）を用いて、「人物関係図」にはどんな内容をどのように書いていくのかを、丁寧にステップを踏んで指導すれば良かった。</p> <p>今回はその事前練習をしないで、いきなり「海の命」について考え始めたので、自分なりの考えがどんと書ける子どもとそうでない子どもに分かれた。</p>	<p>・自分一人では、なかなか書けない子どもたちは、ペアワークやグループワークで友達に助けて貰いながら、記入をしていた。</p> <p>・クラス全体で仕上げていった「人物関係図」がほぼ完成するという時に、まさに「それがこの物語の主題のひとつ」という内容を発表した子どもがおり、クラスの子もみんなもちろんのこと、指導している私も「この少ない補習校授業の中で、そこまで読み取れるのか」と大変感心をした。</p>

時限	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
4	物語のクライマックスをとらえる。	<p>めあて <u>ズバリ！太一の心が一番変化した一文を探そう</u></p> <p>(物語のクライマックス場面に迫る)</p> <p>・太一の気持ちの変化の流れを、ワークシート③発問 A~C に沿ってまとめる。 (2-A~2-C を記入)</p> <p>・太一の心が一番変化したと思う一文に線を引く。(教科書本文) (自分で考える→ペアで交流→グループで交流→全体で交流)</p> <p>↓</p> <p>P210L12『水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。』</p> <p>・クエ(瀬の主)を打たなかった理由について話し合い、太一の考えがどう変わったかを読み取る。</p> <p>・太一の心が変化したあと、なぜ太一は瀬の</p>	<p>・それまでの授業の流れで、既にクライマックスの場面がどこか理解できていた。太一の心が一番変化したことが分かる一文を探す時には、意見が割れたので、それぞれがどうしてそう思うか？の根拠を出し合い解釈を深めていくことで、最終的に子ども達自身でその一文にたどり着けた。</p> <p>・太一の心境の変化を、文章に書くのではなく、「色」を使って表現する活動が、この単元のひとつの山場となった。日本語に課題のある子ども達でも、異なる色を使ったり、塗り方のパターンを工夫したりと、「自分の考え」を自由に表現できていた。</p> <p>・机間指導をし、子ども達全員から、それぞれ</p>	<p>・クライマックスは「この辺り」と分かっていたが、肝心の一文を探し出すには、予想以上に時間がかかった。まずは、該当部分の前後の音読を授業冒頭にしてから、その一文に迫っていけるような発問をいくつかしていくと、子ども達が考えやすかったと思った。</p>	<p>・課題をこなすスピードには個人差があるため、早く塗り終わった子ども達はお互いのワークシートを見せ合って交流をした。自分とはまったく異なる考えを持っている友達の塗り方やその根拠を知り、とても刺激を受けていたようだ。</p>

		<p>主にもりを打たなかったのかを考える。</p> <p>※文章で表現するのではなく、「暗知黙」（簡単に言葉で説明できない知識）を使い、この時の太一の心の様子を色で表現する。</p> <p>・自分が塗った色について、そう考えた理由を交流する。</p>	<p>の作品について、色使いの根拠や何を表現したかったかなど、口頭での説明を聞くことができた。話すことは書くことよりもハードルが低いと見え、どの子どもも生き生きと自分の作品について話をする事ができた。日本語力に関係なく、全員が主体的に取り組める活動であった。</p>		
家庭学習課題	<p>・登場人物の台詞を中心に音読。（気持ち想像しながら読む）</p> <p>・ワークシート⑤🌀型の短冊に塗った色の表現について家族に話す。それを家族が文章化し、記入して先生へ報告する。</p>	<p>・多くの保護者の方々からは、保護者欄への記入をして頂けた。子ども達の話したことを文章化する過程を通し、我が子が補習校でどんな学習をしているのかを理解して頂けたと感じた。</p>	<p>・中には、保護者記入欄について、「どうして（親が）こんなことをしなくてはいけないの？」とあまり協力的ではないコメントも聞かれたようなので、保護者協力を求める事前説明が不足していたのだと感じた。</p>	<p>・「（お家の方が）協力してくれた！」</p> <p>「ちゃんと（自分の話すことを聞いて）書いてくれた」と話してくれた子ども達もいた。</p>	

時限	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
5	登場人物の生き方について考える。	<p>めあて <u>太一の生き方を考えよう</u></p> <p>・クエ（瀬の主）を打たなかったことを生涯誰にも話さなかった理由について話し合う。（自分で考える→ペアで交流→グループで交流→全体で交流）</p> <p>①もしもクイズ 「もしも、太一が巨大なクエに出会った時に誰かの声が聞こえてきたとしたら、それは誰のどんな声か？」</p> <p>②もしもクイズ 「もしも、太一が巨大なクエを打たなかった理由を誰かに話したとしたら、それは誰にどんな風に話したと思うか？」</p> <p>・太一の書かれていない思いを想像して書き、ビデオレターにすることを伝える。</p> <p>・次週の予告と宿題の説明。</p>	<p>・「もしもクイズ」②にある「クエを打たなかった理由」については、前時に行った「心情を色で表す」シートで既にしっかりと考えてあったので、割とスムーズに自分の考えを持つことができていた。どちらかというと「もしもクイズ」①の「誰かの声が聞こえてきたら～」を考える方が、難しかったようだ。</p>	<p>・「太一がクエを打たなかったことを生涯誰にも話さなかった理由」を考えることで、「太一の生き方」について考え自分の考えを持たせたかった。しかし、途中で行った「もしもクイズ」①②の印象と前時に「クライマックス場面での太一の気持ちの変化を色で表現した」活動の印象が強かったため、多くの子ども達は「クライマックスの場面で、「なぜ、太一はクエを打つことを止めたのか？」について、一生懸命に考えて、それを宿題の「ビデオレター」ワークシートに書いていた。子ども達は意識していなかったと思うが、この授業で考えるべき発問の内容が、途中からずれた感があった。</p>	<p>・「もしもクイズ」で考える手立てが見つからない時には、積極的に「～はどういうことですか？」や「～はどういうことですか？」などと、教師に質問をしていた。あきらめずに一生懸命に課題に取り組み、考えようとしていた。</p>
	家庭学習課題	<p>・ワークシート⑥を完成させて、朗読の練習をしてくる。</p> <p>・ワークシート⑥（反転授業）の説明をする。</p> <p>NHK「お伝と伝じろう」より「声だけで表現しよう」を視聴し、よい朗読をするための「体・心・技」とは何かを理解する。</p>	<p>・初めて「反転授業」だったが、ほとんどの子ども達が宿題のワークシートに取り組んできた。そのお陰で、授業は、ワークシートの答え合わせ（よい朗読をするための技は既に宿題として学んできたという前提）をサツとただけで、実際の朗読練習に時間をかけることができた。</p>		

時限	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子どもたちの反応
6	学習の成果の発表と交流	<p>めあて <u>太一の書かれていない気持ちをビデオレターにしよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題ワークシート⑤を使用し、よい朗読をするためには「体・心・技」が大切なことを確認する。 ・自分が書いた手紙の朗読練習をする。 (全身を使って朗読できるように、教師が見本を示す) 差出人：太一 宛先：死んだ父、クエ(≒父)、じいさ、母、妻、子ども達 ・ビデオレターにするために、一人 30 秒ずつ録画する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の発表(案) <ul style="list-style-type: none"> * 6 年 1 組と 2 組で互いに視聴し合う。 * 2 月の授業参観で流す。 * 3 月の「6 年生を送る会」での発表の一部とする。 * 3 月の「卒業式」後のホームルーム(保護者も参加)で流す。 など。 ・ルブリックに記入をし、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオレターを録画できる時間が限られていたため、子ども達は最短の練習時間の後、すぐに録画に進んだ。(今回は、教師の携帯電話で撮影をした) そんなに少ない練習時間でも、原稿をほとんど見ないでスピーチをしたり、気持ちを込めて話そうとしたりと、与えられた状況の中で課題をやり抜こうとする意欲が感じられた。 ・太一になりきって書いた手紙を、今までのようにクラスの中で発表するのではなく、そこで 1 クッション置いてビデオレターに録画した。レンズを通して自分とクラスメイトの学習の成果を視聴するという初めての体験をし、教師にとっても子ども達にとっても、とても印象に残る単元となった。 ・主人公の生き方に対する自分の考えをビデオレターで表現する活動は、日本語力の差に関係なく、すべての子ども達が楽しく取り組むことができた。 ・様々な活動を行い本文を読み込んでいったので、単元テストでは多くの子ども達が満点かそれに近い点数が取れていた。知らず知らずのうちに、本文の読みが深まっていたようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下で、1~2 名ずつビデオレター」の撮影をしている時に、教室内では残りの子ども達が自分の順番が回ってくるのを待ちながら、スピーチ練習をしていた。この時に、少々賑やかめになっていた。もし、教室外の静かなところで録画をするのであれば、それ以外の子ども達への手立てが必要だと感じた。 ・5 時限目の「改善点」にも書いたが、最終的には多くの子ども達が「クエを打たなかった理由」を、宿題だったビデオレターに書いてきた。本来目指していたのは、「クエを打たなかったことを誰にも言わなかった理由」なので、ここに迫っていかれるように、5 時限目の授業活動案を見押すか、ワークシート⑥の内容を変更をする必要があると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は授業参観で、全員分のビデオレターを繋げて編集したものを上映した。多くの保護者の方々も参観し、中には涙を流して方もいらした。子ども達のがんばりが良く表れているビデオレターに仕上がった。 ・子ども達は自分のビデオレターは見たくないけれども、友だちのものは見たいという複雑な心境だったようで、とても微笑ましかった。 ・上映が終わった後の感想では、「(ビデオレターを)録画している時にはそんなに緊張しなかったけれども、今日、出来たのを見る時の方が緊張した!」という内容が割と多かった。 ・通常の授業では発言が少なく大人しめの子も子ども達が、ビデオレターでは表情豊かに堂々と発表できており、子ども達の秘められた可能性を見ることができた。

◆単元を終えて

今年の小学部 6 年生は、ダラス補習校で AG5 取り組みが開始になった 3 年前から、毎年 AG5 授業を受けている。4 年、5 年、6 年と学習を積み上げてきた成果が、今回は顕著に表れたと感じた。どんなに新しい活動でも「やってみよう!」という前向きな姿勢で臨み、ペアワークやグループ学習では、教師からの最低限の指示があれば「じゃあ、やろう。誰からやる? 順番をジャンケンで決めよう!」と主体的に取り組むことができていた。また、自分とは違う意見が出た時には「そういうことか。なるほど。へえ、そういう風にも考えられるんだ。」とお互いを認め合える関係も構築されていた。算数は別の教師が担当しているが、そこで行ったプロジェクト型グループワークでも、教師の指示がなくても自分達からどんどんと活動を進めることができおり、教科を問わずに「主体的な学び」が実践できている。昨年の小 6 の AG5 単元(国語)を今年もほぼ同じ授業活動案で指導したが、それらの単元での取り組み姿勢も素晴らしかった。グループワーク(4 名ほど)では意図的に、日本語が得意な子ども達と英語の方が得意な子ども達を混ぜたメンバーで行わせているが、自分達が持っている得意な力を活用することで、お互いを上手く補い合っている。